

ISSN 0910-285X



研究連絡誌

第75号

特集 低湿地遺跡の自然科学的分析

— 市川市雷下遺跡・道免き谷津遺跡 —

平成 26 年 3 月

公益財団法人 千葉県教育振興財団

研究連絡誌
第75号

特集 低湿地遺跡の自然科学的分析
— 市川市雷下遺跡・道免き谷津遺跡 —

平成26年3月
公益財団法人
千葉県教育振興財団

市川市雷下遺跡



丸木舟出土状況



丸木舟出土層位



舟首部材と棒状木製品出土状況



舟首付近工具痕

市川市道免き谷津遺跡



木製耳飾り



木製耳飾りの出土状況

巻頭図版

本文目次

特集を組むにあたって

| | | |
|---------|---|----|
| 1 | 雷下遺跡の概要・・・・・・・・・・・・・・・・ | 1 |
| | 沖松 信隆 | |
| 2 | 雷下遺跡から出土した丸木舟と木胎漆器の ¹⁴ C年代測定・・・・・・・・ | 13 |
| | 工藤 雄一郎・一木 絵里・能城 修一・佐々木 由香 | |
| 3 | 市川市雷下遺跡にみられた生痕化石・・・・・・・・・・・・・・・・ | 17 |
| | 小幡 喜一 | |
| 4 | 雷下遺跡から出土した縄文時代早期人骨の予察的検討結果・・・・・・・・ | 19 |
| | 澤田 純明 | |
| 5 | 道免き谷津遺跡第3(2)出土木製耳飾りの出土状況・・・・・・・・ | 21 |
| | 岡田 誠造 | |
| 6 | 道免き谷津遺跡から出土した耳飾りの樹種・・・・・・・・ | 23 |
| | 能城 修一 | |
| 7 | 道免き谷津遺跡第3地点から出土した漆製品の ¹⁴ C年代測定・・・・・・・・ | 25 |
| | 工藤 雄一郎 | |
| 8 | 千葉県市川市道免き谷津遺跡の出土遺物における科学分析・・・・・・・・ | 27 |
| | －木胎耳飾りの漆膜分析－ | |
| | 本多 貴之・湯浅 健太・宮腰 哲雄・蜂屋 孝之 | |
| 9 | 千葉県市川市道免き谷津遺跡の出土遺物における科学分析・・・・・・・・ | 31 |
| | －縄文時代前期彩色土器の漆膜分析－ | |
| | 本多 貴之・湯浅 健太・宮腰 哲雄・蜂屋 孝之 | |
| 《研究ノート》 | | |
| 10 | 木葉形薄型尖頭器の新例－その分布の広がり－・・・・・・・・ | 35 |
| | 橋本 勝雄 | |

特集を組むにあたって

東京外かく環状道路の建設に伴う発掘調査では、多くの遺跡が低湿地に立地するため、台地上の遺跡では消失してしまう木製品や植物素材の遺構や遺物が出土している。特に、市川市雷下遺跡と道免き谷津遺跡では、それぞれ縄文時代早期後半～前期初頭、後・晩期を中心とする時期の遺跡として注目すべき成果が相次いでいる。

平成16年度から本格的な調査を実施している道免き谷津遺跡では、第1地点～第3地点の調査を進めている。既に第1地点(3)・(4)の調査報告書を刊行し、(3)では縄文時代晩期の木組遺構群と漆塗りの耳飾や堅櫛などの貴重な木製品、食料となったトチノキの実など、(4)では木製品のほか赤漆で文様を施した土器を報告し、当時の水辺の生活を知る貴重な資料として注目されている。

雷下遺跡は、平成17年度の確認調査で標高0 m～2 m地点に縄文時代早期から前期にかけての低地性貝塚が確認され、平成24年度から貝塚の本格的な調査を開始した。貝層は、標高2 mから-2 mにかけて堆積し、最も厚く堆積したところでは約4 mにおよんでいる。貝層は大きく8層に分けられ、出土した土器によって早期末を中心とする比較的短い期間に形成されたことが判明している。貝塚からは土器・石器・骨角器のほか、人骨・動物遺体等の自然遺物が出土するのは通例であるが、低湿地に立地する雷下遺跡では、多量の木製品・編み物製品・ドングリの集積土坑・木葉など植物質の遺構・遺物が充実しており、それらは貝層の堆積が見られない区域にまで広がっている。このような調査状況の中で、平成25年11月末に丸木舟が発見され、公表したところである。

調査に際しては、道免き谷津遺跡の調査開始時から、古環境の復元・有機質遺物の同定を不可欠の要素として実施してきた。さらに、雷下遺跡の本格的な調査に伴い、関連諸科学とのより一層緊密な連携を図り、最新の研究成果を取り入れた総合的な調査を実施する方針を固めた。連携調査については、分野別の調査計画を策定し、調査成果を相互に共有するため、関連機関の研究者による現地指導とともに調整会議を行って意見交換を行ってきたところである。

雷下遺跡の調査成果は、丸木舟の発見とその報道によって一気に関心が高まっており、関連分野の研究者はもとより、一般市民の関心も極めて高い。また、自然科学分野の研究機関・研究者の一部の方には、取得した科学研究費によって協力していただいているため、その成果を随時公表する必要があると考える。

このような状況から、調査の途中ではあるが、本誌上で雷下遺跡・道免き谷津遺跡の調査成果に関する中間報告を行うことにした。みなさんの御意見・御協力をいただければ幸いである。

平成26年3月